

平成 24 年度に都道府県で実施された主な献血者確保対策

都道府県名	事業等の名称	事業内容	本事業の効果・効果の要因 (献血者数、参加者数等数値で表せる場合は記載する)
北海道	<p>●LOVE in Action Air-G' edition～はじめYo!けんけつ～</p>	<p>・若年層への献血推進 (平成 25 年 2 月からの二カ月間)</p> <p>①FM北海道(ラジオ局)の番組内での広報(北海道献血カレッジと題し献血に関する授業の様態を放送)</p> <p>②同局によるCM、パブリシティの放送</p> <p>③献血推進団体及び複数回メールクラブ会員を対象に献血フォーラムを実施。その中で、スポーツ選手を招いたトークショーを実施。</p> <p>④献血啓発イベントの実施</p> <p>⑤ポスター、HP での周知。</p>	<p>●事業効果・・・平成 24 年度の 10 代では 17,645 人(構成比 6.2%, 対前年度比 100.2%)、20 代では 50,887 人(構成比 17.8%, 対前年度比 100.6%)と前年度の実績を上回った。また、献血率についても平成 24 年度全体で、10 代では 8.5%(前年度同率)、20 代では 9.4%(対前年度比+0.1%)となっている。</p> <p>●効果要因・・・北海道内にて高聴取率を誇る FM 北海道(ラジオ局)とタイアップし、二カ月間にわたり継続的に献血に関する放送を行った。また、ショッピングモールにて公開収録形式の献血の啓蒙イベントを行い、その様態は後日に特番としてラジオ放送された。同イベントは、新聞の記事にも掲載されたことから、より広く広報することが出来たものと考えられる。</p>
青森県	<p>●400mL 献血強化対策</p>	<p>・事業所献血実施の際、市町村担当者と血液センター職員が訪問し、400mL 献血の必要性を説明して協力した方に特別な記念品を差し上げた。</p>	<p>●事業効果・・・全体の 400mL 比率は、80.6%だったが 400mL 献血強化事業所の比率は、84.3%となった。(延 953 事業所実施 200mL2,654 人 400mL15,325 人)</p> <p>●効果要因・・・ポスター・チラシでの事前広報及びナースシティとけんけつちゃんがコラボした記念品が喜ばれた。</p>

<p>岩手県</p>	<p>●クリスマス献血 キャンペーン</p>	<p>1 実施期間 12/1 から 12/25 (25 日間)</p> <p>2 実施概要 ・主に土日・祝日に学生奉仕団や各ボランティア団体の協力をいただき献血の呼びかけを行った。 ・この時期に合わせ県でテレビスポットCM (献血体験バスツアー) を制作し民放4局で120本放映した。</p>	<p>●事業効果・・・12/1～12/25 間の採血/供給は、127%となり、安定供給に結びついている。</p> <p>●効果要因・・・献血実施会場の地元のボランティア団体の呼びかけ(事前及び当日)や動員により、献血協力者が増加し安定確保に繋がった。</p>													
<p>秋田県</p>	<p>●秋田献血大作戦 (2回実施)</p>	<p>・県出身タレントのトークショー、地元ラジオ公開録音、献血バス設置、映画(ダブルスカイ)放映 (大学生で構成された献血推進協議会のメンバーが主体となり、若年層の献血推進を目的とした活動キャンペーン)</p>	<p>●事業効果・・・若年層献血者、初回献血者の確保普及啓発</p> <p>●効果要因・・・</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">1回目 集客人数</td> <td style="text-align: right;">150人</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;"> 献血者数</td> <td style="text-align: right;">59人</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">2回目 集客人数</td> <td style="text-align: right;">600人</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;"> 献血者数</td> <td style="text-align: right;">25人</td> </tr> </table>	1回目 集客人数	150人	献血者数	59人	2回目 集客人数	600人	献血者数	25人					
1回目 集客人数	150人															
献血者数	59人															
2回目 集客人数	600人															
献血者数	25人															
<p>山形県</p>	<p>●献血普及啓発映画 CM放映</p>	<p>・高校生が複数回献血を呼びかける15秒CMを制作し、映画館において放映する。 (1カ月1500回放映、5回/1日/1スクリーン×10スクリーン×30日、9ヵ月)</p>	<p>●事業効果</p> <p>①複数回献血者数(193人増)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">複数回献血者数</td> <td style="text-align: center;">複数回献血率</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">平成24年度</td> <td style="text-align: center;">7,947人</td> <td style="text-align: center;">26.5%</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">平成23年度</td> <td style="text-align: center;">7,754人</td> <td style="text-align: center;">25.4%</td> </tr> </table> <p>②高校生献血者(609人増)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">平成24年度</td> <td style="text-align: center;">3,749人</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">平成23年度</td> <td style="text-align: center;">3,140人</td> </tr> </table> <p>●効果要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客の多いGW、夏休み、年末年始、春休みにCMを放映。 ・高校での献血の際、新献血ルームを周知するクリアファイルを配布し献血ルームでの2回目の献血を啓発。 		複数回献血者数	複数回献血率	平成24年度	7,947人	26.5%	平成23年度	7,754人	25.4%	平成24年度	3,749人	平成23年度	3,140人
	複数回献血者数	複数回献血率														
平成24年度	7,947人	26.5%														
平成23年度	7,754人	25.4%														
平成24年度	3,749人															
平成23年度	3,140人															

宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ●サマー献血キャンペーン ●クリスマス献血キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティアによる献血の呼び掛け、及び献血終了者へ記念品配布等 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・サマー献血キャンペーンでの献血者数 305 名 ・クリスマス献血キャンペーンでの献血者 439 名 ●効果要因・・・学生ボランティアからの呼び掛けで、多くの方から協力をいただいた。
福島県	<ul style="list-style-type: none"> ●「献血！私たちからはじめよう！」プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞等マスコミに取り上げてもらい学生自ら献血を呼び掛ける行動に立ち上がったことを前面に出して推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインに掲げられた10代20代のそれぞれの目標を達成することができた。 10代；目標6.1%、献血率6.1% 20代；目標8.1%、献血率8.4%
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ●高校献血キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・献血推進ポスターのデザインや標語を募集、献血協力生徒へ記念品の配布・アンケートを実施 (キャンペーン期間：10月～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・キャンペーン期間中の高校生の献血者数(3,548人：対前年比131人増) ●効果要因・・・キャンペーンチラシの配布、口コミ
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ●平成24年度「チャレンジ！400ml献血&成分献血キャンペーン」 	<ul style="list-style-type: none"> ・血液の不足する時期(8月)に、初めて「400ml献血」または「成分献血」にご協力いただいた方に対して、オリジナル記念品を贈呈。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・400ml献血573人、成分献血161人と、ともに初回献血者が前年を上回った。 ●効果要因・・・集中的なキャンペーンを行うことにより効果的な献血思想の普及啓発を行うことができた。
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> ●「献血感謝デー」キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの献血協力への感謝の念を表すとともに一層の献血啓発を目的として実施した。 ・血液センター所長感謝状贈呈式 ・移動採血バス3台で献血実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・献血者数247名 ●効果要因・・・来場者記念品引き換え754名
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ●Heart Beat Festa 	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス大会。参加者(パフォーマンスチーム)が献血を呼びかけるメッセージを発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・決勝大会来場者数 約880名 ●効果要因・・・ウェブサイト予選やダンスなど若年層へのアピール・参加型イベントで、多数の来場者の興味を引くことができた。

千葉県	●はたちの献血キャンペーンイベント	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉ロッテマリーンズ協力によりイベントを実施し、同キャンペーンの周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・イベントの観覧者多数、地元テレビや新聞でも取り上げられ献血広報効果は高かったと思われる。（キャンペーン期間中、前年より献血者数 229 人増） ●効果要因・・・地元人気のプロ野球チームの理解・協力の他、日本赤十字社千葉県支部、同血液センター、行政（船橋市）や学生ボランティアとの連携、大規模商業施設の協力等による。
東京都	●複数回献血クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブ会員募集 ・会員への依頼・要請応諾状況定期要請 <p>緊急（掘起し）要請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・安全な血液の安定的な確保に一助 ●効果要因・・・ <p>定期：依頼・要請数 256,000、献血数 33,200 応諾率：13%</p> <p>緊急 依頼・要請数 59,100、献血数 2,760 応諾率：4.7%</p>
神奈川県	●10代20代はじめて献血キャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・16歳～29歳の初回献血者ならびに上記献血者の紹介者を対象に10月～12月献血ルームで実施。 ・1月以降は移動採血車と他の世代の初回献血者にも対象を拡大し3月まで継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・実施期間中の10～20代初回献血者が対前年度比4.2%増加。受付者数では7.2%増加 ●効果要因・・・県から各自治体や県内各高校大学に周知。マスメディアの活用や血液センターホームページ等でのPR
新潟県	●学生ボランティアによる街頭献血PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市内5つの高校のインターアクトクラブが、冬季の献血者減少期に合同で献血呼びかけ活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・献血者数230名 ●効果要因・・・ポケットティッシュ配布 献血バス・会場をクリスマスの飾り付けを行うことにより興味をひくことができた。
山梨県	●若年層献血者確保対策	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭にてハートフルコネクションキャンペーンを実施。FM局で献血の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業効果・・・献血ルーム8日間で445名、移動献血で374名の献血実績 ●効果要因・・・NEXCO 中日本、学生献血推進連絡会の有志及びFM富士による献血の呼びかけ

長野県	●定例献血スポット キャンペーン	・移動採血車の運行計画にない事業所や自営業者、主婦、高校生等が献血できる機会を増やすため、毎年同じ月の同じ曜日に同じ場所に継続的に移動採血車を配車	●事業効果：上田地域 ・奇数月の第4土曜日に大型店（ショッピングモール）に移動採血車を配車 ・受付者総数 623人 ・献血者総数 500人 ・1日当たりの献血者数 83人 ●効果要因 ・定例化することにより、新規献血者の受け入れ機会が増え、併せてリピートドナーへの移行が期待できる。
富山県	●（血液センター） 400mL複数回献血キャンペーン	・事業所及び街頭献血で4月～9月に400mL献血者にキャンペーンカードを配布し、7月～3月に再度献血した人に粗品を進呈する。	●事業効果・・・ ① 400mL献血者 H23年度：21,937人 H24年度：22,117人 180名増 ② 2回以上400mL献血者数 H23年度：3,890人（20.15%） H24年度：4,067人（21.59%） ●効果要因・・・各献血会場でキャンペーン内容をチラシ等でPRし、次回献血の足がかりとなった。
石川県 赤十字血液 センター	●献血セミナー事業	・県内各高校あてに献血セミナー開催を依頼し、学校の要望に応じて、人数、規模、時間に合わせたカリキュラムを個別に作成・実施した。	●事業効果・・・13校17回の実施で、対象となる生徒1,280人、教員172人が受講する。 ●効果要因・・・国、県、県教育委員会が発出した文書をもとに、各高校にて献血の現状を説明し、献血セミナーの開催を依頼したため。
福井県	●中学生向け 献血セミナー	・出前講座や職場体験をとおして献血や命の大切さを学習	●事業効果・・・中学校7校13講座 約550名 ●効果要因・・・近い将来の献血の担い手

<p>岐阜県</p>	<p>●氷菓×献血 献血 キャンペーン</p>	<p>・地元高山市を舞台にしたアニメ「氷菓」とコラボした献血啓発ポスターとクリアファイルを作成し県内3か所の献血ルームで献血協力者に配布した。（実施期間：平成25年1月25日～3月31日）</p>	<p>●事業効果・・・キャンペーン期間中、昨年同時期と比較して、10代の献血者数が127.1%、20代が108.9%と増加した。（キャンペーン目的の献血者：10代；228人（うち、初回165人）20代；367人（うち、初回135人））</p> <p>●効果要因・・・アニメキャラクターを採用することにより若年層支持を得たことによる。</p>
<p>静岡県</p>	<p>●アボちゃんサポーター事業</p>	<p>・県内高校生徒186名に献血ボランティア「アボちゃんサポーター」を委嘱し、献血啓発広報活動を実施する。</p>	<p>●事業効果・・・献血意識の普及（献血ボランティア本人だけでなく、周りの生徒や一般県民）</p> <p>●効果要因・・・同世代に対しての呼び掛け効果に加え、他の年長者の年代に対しても高校生からの呼び掛けは効果的である。</p>
<p>愛知県 赤十字血液 センター</p>	<p>●若年層献血者確保 対策事業</p>	<p>・若年層対策各種献血キャンペーンの実施 初回献血キャンペーン (H24.12.1～25.3.31) 17歳から29歳の初回献血者に AKBクリアファイルを進呈した。</p>	<p>●事業効果・・・受付10143人 献血数6754人 ・記念品等入手する目的で来所された若年献血者も多数おり一定の効果はみられた。</p>
<p>三重県</p>	<p>●ヤングミドナサポーター事業</p>	<p>・若年層に対する献血推進として、高校生等学生の献血推進ボランティアを「ヤングミドナサポーター」として募集委嘱し、地域や学校等で献血啓発活動を実施。</p>	<p>●事業効果・・・平成23年度は登録者が354名であったのが24年度は453名と大幅に増やすことができた。</p> <p>●効果要因・・・献血セミナーの開催依頼を高等学校等へ、保健所と血液センターが共に伺いに行ったこと、また、特に医療系を目指す学生に学校側が参加をすすめていただけたことが増加の要因と考えられる。</p>
<p>滋賀県</p>	<p>●びわ湖草津献血 ルームの新設</p>	<p>・日赤が平成25年2月にびわ湖草津献血ルームを新規開設した。</p>	<p>●事業効果・・・若年層を含めた県民の献血の増加につながる。（平均51人/日）</p> <p>●効果要因・・・県内初の都市型の献血ルームのオープン</p>

<p>京都府</p>	<p>●高等学校長会への協力要請</p>	<p>・京都府公立高等学校長会開催時に献血セミナーの説明と依頼</p>	<p>●事業効果・・・高校での献血セミナーの実施 23年度1校→24年度5校</p> <p>●効果要因・・・府と血液センターが協力して、学校長に依頼できたため</p>
<p>大阪府</p>	<p>●10代、20代はじめての献血キャンペーン</p>	<p>・10代、20代の初回献血者を対象に記念品を進呈。キャンペーンを周知するために、ポスター掲示、新聞折り込みチラシ、FMラジオスポットCM、キャンペーンイベント等を実施した。</p> <p>・さらにキャンペーン効果を高めるために、既献血者対し友達紹介カードを配布し、10代、20代の献血未経験者をご紹介いただいた。</p>	<p>●事業効果・・・10代、20代の献血者数は、年々下がり続けていたが、平成24年度は増加に転じ、平成23年度と比較すると、2744名の増加となった要因の一つは当キャンペーンによるものと思慮される。</p>
<p>奈良県</p>	<p>●「初音ミク×奈良県赤十字血液センター」コラボキャンペーン</p>	<p>・若年層に人気のキャラクターとのタイアップイベント。献血バス・供給車</p> <p>・採血装置・パネル等の展示。AED講習会。当日献血頂いた方には「初音ミク」のオリジナルポスター&ポストカードを進呈した。</p>	<p>●事業効果・・・平均60~70名の受付数が、この日は135名。10代~20代の献血者については普段よりも約20名の増となった。</p> <p>●効果要因・・・若年層への影響力のある媒体を選択できた。事前PRの強化。店舗側の積極的な協力があり、大々的に開催できた為。</p>
<p>和歌山県赤十字血液センター</p>	<p>●和歌山県学生献血推進協議会による街頭啓発キャンペーン</p>	<p>・休日に郊外大型スーパーマーケットで移動採血車による献血実施時に学生が啓発を行い献血終了後コーヒ一等のサービスを行う。</p>	<p>●事業効果・・・献血協力者が昨年度比21%増加した。うち30%が若年層献血者であった。</p> <p>●効果要因・・・同年代学生からの啓発により、若年層に献血を身近なものと感じてもらえた。</p>

<p>兵庫県</p>	<p>●高校生献血啓発事業</p>	<p>実施内容</p> <p>① 献血啓発コーナーの設置 [県] 高校の文化祭で献血啓発コーナーを設置し、高校生が献血推進ボランティアとなり、生徒や来校者に対して、献血のPR活動を展開。</p> <p>② 献血セミナーの実施 [センター] 献血推進ボランティアや、学生を対象に、献血についての理解を深める献血セミナーを実施。</p> <p>③ 高校へ献血バスの配車 [センター]</p>	<p>●事業効果</p> <p style="text-align: right;">24年度実施校数 (校)</p> <table border="1" data-bbox="1357 220 2011 448"> <thead> <tr> <th rowspan="2">県</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">前年度</th> </tr> <tr> <th>①啓発コーナー</th> <th>36</th> <th>27</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">血液センター</td> <td colspan="2">24年度</td> <td colspan="2">前年度</td> </tr> <tr> <td>②献血セミナー</td> <td>32</td> <td>9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③献血バス</td> <td>28</td> <td>21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※献血セミナーは、高校生以外への若年層対象分も含む</p> <p>●効果要因</p> <p>県と血液センターが連携して県教育委員会などの関係機関に実施依頼するなど、協力し事業を進めることにより、県下の高校への周知が徹底され、実施へと繋がった。</p> <p>その結果、高校生が献血への理解を深め、その後、学校での献血会にて実際に献血を体験するといった、啓発から実践への流れのある啓発を実施することが出来た。</p>	県	24年度		前年度		①啓発コーナー	36	27		血液センター	24年度		前年度		②献血セミナー	32	9		③献血バス	28	21	
県	24年度		前年度																						
	①啓発コーナー	36	27																						
血液センター	24年度		前年度																						
	②献血セミナー	32	9																						
	③献血バス	28	21																						
<p>鳥取県</p>	<p>●若年献血者確保対策事業</p>	<p>・献血者の底辺拡大を図るため、若年層（高校生等）に対しキャンペーンや研修会を開催し、献血への理解と協力を求める。</p>	<p>●事業効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問 21校 ・高等学校献血協力状況 5校6回、受付人数 215名、献血者 148名 (200ml 62名、400ml 86名) 																						
<p>島根県</p>	<p>●献血セミナー</p>	<p>・血液センター及び保健所職員が高等学校等の要請に応じ、献血セミナー（献血DVD上映や献血及び血液についてのスライド学習等）を実施</p> <p>・県内全高校に献血セミナーの受け入れについてアンケート調査を実施</p>	<p>●事業効果</p> <p>8箇所で開催し合計 969名の生徒が参加 ※H23年度は1箇所で開催</p> <p>●効果要因</p> <p>校長会等で献血セミナーの受け入れの協力依頼を実施</p>																						

岡山県	●献血セミナー（赤十字出前講座）」	・県下各高校へ出向き、命の大切さや献血知識の普及に努める。	●事業効果 ・のべ33校2,056名が受講 献血セミナーの内容に「一次救命処置」を取り入れた。 ・高校献血実施校が10校574名。 (前年度2校、119名)
広島県	●献血セミナー	・中学・高校へ出向いて献血についての講義	●事業効果 高校生の献血者数の増加 H23 948人 ⇒ H24 1298人 ●効果要因 セミナーを受けた高校生が、献血について身近に感じることができた。
山口県	●高校生献血推進育成ボランティア事業	・献血のことを知ってもらい参加してもらうために、高校生ボランティア有志が文化祭や地域イベント等の場で献血に関する啓発活動・献血を行う。	●事業効果 ・H23年度は啓発活動14校、高校献血4校、146人であったが、H24年度は啓発活動21校、高校献血10校、310人となった。
徳島県	●高校生の学内献血推進	・血液センター及び徳島県薬務課の職員が高校を訪問し、学内献血の再開を依頼。	●事業効果・・・学内献血の実績：15校（計180名の生徒が献血）
香川県	●高校生街頭献血キャンペーン	・高校生献血ボランティアに献血に関する学習をしてもらった後、店内で献血への協力呼びかけを実施	●事業効果 ・H24.7.22 6校 47人が献血の呼びかけ (献血人数 400ml・・・65人) ・H25.1.27 5校 31人が献血の呼びかけ (献血人数 400ml・・・63人) ・H25.2.16 3校 10人が献血の呼びかけ (献血人数 400ml・・・49人)
高知県	●ふるさと献血	・長期休暇等で帰省した者へふるさと高知での献血を呼び掛ける。	●事業効果・・・ ・若年層が少ない高知県において、帰省をきっかけにして献血をってもらうことで、献血者の確保および献血思想の普及啓発に繋げた。

<p>愛媛県</p>	<p>●若年層に対する献血理解促進事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「愛顔（えがお）の高校生献血推進会議」の開催 ・知事メッセージ「～17歳を迎えた男子高校生諸君 献血へ行こう～」の配布 	<p>●事業効果・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて献血可能年齢となる高校生が参加する推進会議を開催し、献血の重要性や意義についての講演、成果発表及び意見交換等を通して、高校生自らが献血について考え、理解を深めた。 （実績）参加高校数 11校、生徒52名 ・高校生同士でテーマについて意見交換を行った結果、献血をする場所が分からない、献血への不安や恐怖がある、200mL献血はなぜできないのか等の意見が出された。 これを受けて県では、平成25年度の県献血推進計画に、200mL献血の在り方として、400mL献血に不安がある高校生は、200mL献血を選択できるなど、可能な限り献血を体験してもらうことを優先した取り組みを行うことを取り入れた。また、平成25年度の知事メッセージの中にもこれらの意見に対する回答を取入れた。 ・校内献血の実施協力高校数及び校内献血者数が増加した。（平成23年度27校（546人）、平成24年度42校（655人））
<p>福岡県</p>	<p>●若年層献血者確保対策事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンプキャンペーン （2回以上の献血で記念品） ・初回者紹介キャンペーン （学内献血、献血ルームの献血者） 	<p>●事業効果・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> [スタンプキャンペーン] 継続的な献血協力が得られている。 [初回者紹介キャンペーン] 1月における8大学の学内献血で初回者紹介により64名の初回者を確保することができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・エコ箸袋（割り箸の袋に広告掲載） 大学の食堂に割り箸を設置し、その袋に献血広告を掲載。 ・ラッピングバス （献血広告のラッピングを施したバスを5ヶ月間走行させる） ・プロスポーツ団体とのコラボ プロスポーツ団体に加えLCにも参加協力いただき、地域に密着した献血者確保を行う。献血会場におけるマスコットキャラクターの献血呼び込み。キャラクターグッズの配布。（ソフトバンクホークス・ギラヴァンツ北九州） ○〔著名人との対談〕 元プロ野球選手と大学生ボランティアの対談記事をフリーペーパーに掲載 ・フリーペーパー ○〔所長との対談〕 血液センター所長、新入職員、学生献血推進ボランティアとの対談。 ○若年層献血者確保の必要性掲載 	<p>〔エコ箸袋〕 学生の大半が目当たりしており、献血ルームの案内や学内で献血が実施されていること、血液が不足する時期等を認識してもらう事ができた。</p> <p>〔ラッピングバス〕 5ヶ月間（10月～3月）福岡市内を走る路線バス（循環路）に献血広告でラッピングを施し走らせることで、「献血」を福岡市民の方々に意識してもらう事ができた。</p> <p>〔プロスポーツ団体とのコラボ〕 マスコットキャラクターとコラボレーションすることで多くの集客ができた。（特に家族連れ） 試合会場での街頭献血（2日間） （400mL×179名） 若い世代のファン層にアピールすることができた。</p> <p>〔フリーペーパー〕 福岡市内の65万戸と主要駅に設置したことで広く献血の必要性を意識してもらう事ができた。</p> <p>●効果要因・・・ グッズの配布、協力団体の呼び込み。 さまざまなキャンペーンで「献血」の文字をいたる所を出していたため、多くの県民に意識させることができた。</p>
--	--	--	---

佐賀県	●若年層対策	・リーフレット、高校生対象献血教室など	●事業効果・・・ ・10代、20代の献血率上昇 (実績：10代5.1%、20代8.0%)
長崎県	●「全国学生クリスマス献血キャンペーン」の支援	・全国学生献血推進実行委員会の主催で、県内2箇所の献血ルームにおいて、献血協力の呼びかけ等を実施した。	●事業効果・・・献血者数：303名。 うち、若年層73名(24%) ●効果要因・・・県内7大学と3高校の連携のもとに若年層の自らのアイデアが奏効して献血者の確保ができた。地元企業の協賛もあった。
熊本県	●はじめよう献血キャンペーン	・若年層献血者確保対策として期間中に400mL献血、成分献血に協力いただいた10代・20代の方にくまモン血液型ストラップをプレゼントした。	●事業効果・・・10代の400mL献血協力者が前年度より0.5%増加した。 ●効果要因・・・高校等において献血セミナーの開催、高校献血の実施、成人式でリーフレットを配布したこと。
大分県	●高校生献血の輪拡大事業	・高校生献血の輪拡大推進校による活動支援及び新規高校の開拓。学校薬剤師等による高校での献血啓発活動。高校献血への理解推進。	●事業効果 ・拡大推進校12校、夏期の交流研修会は7校31名参加、活動報告会は6校33名参加(教師含む)
宮崎県	●高校での献血とふれ合う機会の推進	・高校生を対象とした献血セミナー	●事業効果 ・14回実施 2,059名参加 献血200mL182名、400mL449名 (献血バス学校配車での実績)

<p>鹿児島県</p>	<p>●ヤングハート&ヘルス事業（国保&献血）</p>	<p>・市町村国保との協働事業で40才未満を対象者に献血と検診を実施し若年層献血に繋げる。</p>	<p>●事業効果・・・平成21年度モデルとして3市で実施。23年度は18市町で実施、1稼働平均52名実績。24年度は19市町で実施、1稼働平均59名の実績で向上効果があった。</p> <p>・市町村において、20～30代の若年層のメタボ予防を推進することで、献血不適格者を減らす。</p> <p>●効果要因・・・実施市町の取組が積極的で1稼働での献血者、若年者増加の効果が見られた。</p> <p>・市町村国保が推進する若年層の健康増進・疾病予防対策と、赤十字血液センターが行う若年層献血の推進という共通の対象への課題を協働して取り組むことができた。</p>
<p>沖縄県</p>	<p>●いちやりばちよーでー献血ラブ in 沖縄</p>	<p>・九州学生推進協議会メンバーが中心となり、活動報告や献血の重要性を訴え、また、ゲストにベッキーや地元のアーティストを招いてのコンサートを、那覇市民体育館にて行った。</p>	<p>●事業効果</p> <p>・10代、20代の若者約1,000名が会場を訪れた。</p>